

入学によせて

～平成27年度入学式式辞より～

理事長・学校長

小林 玉枝



学校法人 小林学園 本庄東高等学校附属中学校

きりぐるま

第43号

うらかな春の日、ご来賓並びに保護者の皆様のご臨席のもとに第十回入学式を挙行できました。

新入生の皆さん、入学おめでとう。今日から学園の生徒としての新たな生活が始まります。皆さんの胸は、大きな期待と、少しばかりの不安で一杯になっていることでしょう。今日のこの真剣な気持ちをお忘れずに、これからの学園生活を素晴らしいものにするように努力してください。そのために大切なことをお話しします。

何をするときでも、最も気を付けなければならないのは、始めの一步です。今日は新しい中学校生活の第一日目です。知らない友達や先生方との初めての出会いの日となります。今までの皆さんのことを知っている人はあまりいません。自分の欠点だと思っていたところは、気を付け、反対に長所を發揮するようにして、友達や先生方に自分の良いところをたくさん見てもらえるようにしましょう。

また、学習、クラブ活動、学校行事など、すべてのことに対して、真剣な気持ちで取り組むように心がけましょう。そして、いつも何かを発見しようという気持ちで物事に向き合ってください。人にも、物事にも、常に真剣な態度で向き合う中から、自分にとって大切なことを学び取ること

が出来ます。また、勉強でも学校行事でも、これから出会うことの全てを楽しみにして待つ気持ちを持ちましょう。楽しみにして待つという心があれば、そのことに取り組む時にも自然と前向きになることが出来ます。前向きな気持ちで取り組むことが、真剣さに繋がります。そのような真剣な姿勢を持ち続けて欲しいと思います。

さらに、規則正しい生活が心がけ、健康で元気の学園生活を過ごすようにしましょう。心と身体が健康でなければ、勉強も、運動も、教科外のさまざまな活動も思うようにはなりません。家庭では保護者の方の言いつけを守り、学校では先生方の指導によく耳を傾けて、素直な気持ちで生活してください。

さて、保護者の皆様には、お子様のご入学を心よりお祝い申し上げます。お喜びとともに、中学生という多感な時期に、ご心配も尽きないことと拝察致します。学校と致しまして、保護者の皆様との連携を密にしつつ、総力を挙げて教育に当たる所存でございます。ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日、ここにご臨席下さいました皆様に感謝申し上げますとともに、新入生の皆さんの学園生活が、希望に満ちたものとなることを祈念して、式辞と致します。

新入生の皆さん、本庄東高等学校附属中学校へ、ご入学おめでとうとございます。皆さんのご入学を心から歓迎致します。全校生徒・教職員は、皆さんの入学を楽しみにしていました。努力が報われ、入学試験を見事突破し、本校へ入学する事となったわけです。受験勉強に取り組み、受験という関門に挑戦し、合格というキップを手に入れた時の感動を忘れないでください。この経験は、これからの学校生活にとって大きな宝物となります。

日々を充実させ、自己を鍛えてください。先輩たちに追いつき、追い越せるよう頑張りましょう。中学校生活は、小学校時代と大きく変化します。その一つは、日々学ぼうとする知識欲旺盛な心が必要だということです。二つ目は、忙しい生活の中で、自己の生活リズムを確立し、何事にも挑戦する事です。そして三つ目は、部活動が始まる事です。先輩たちと力を合わせながら目標達成をしてください。学校行事も盛り沢山です。さまざまな行事を通して、より大きく成長してほしいものです。そこには、喜びを分かち合える仲間たちとの出会いと、素晴らしい思い出が待ちかまえています。また、今まで気づかなかつた自己発見や、豊かな人間性が自然と身につく事でしょう。

未来につながる夢の扉を開けるスタートです。

皆さん、入学おめでとう。本校へ入学する事となったわけです。受験勉強に取り組み、受験という関門に挑戦し、合格というキップを手に入れた時の感動を忘れないでください。この経験は、これからの学校生活にとって大きな宝物となります。

合唱コンクール

最優秀賞 3年1組「聞こえる」
優秀賞 2年1組「HEIWAの鐘」
2年2組「いつまでも」

三月七日(土)、第八回校内合唱コンクールが行われた。どのクラスも練習の成果を發揮し、美しいハーモニーを響かせてくれた。一年間の最後の行事として、各クラスが力を入れる合唱コンクール。私たちのクラスは去年逃した最優秀賞を狙い、クラス一丸となって練習をした。ただそれだけでは足りない。指揮者であつ

た私は、皆が歌い終わった後に「楽しかった」、「気持ちよかった」と思えるような合唱をつくり上げることも目標にしていた。私は、皆が一生懸命に練習をし、上達していく姿を見て、嬉しさと同時に楽しさも感じていた。きっと皆も同じ気持ちでいてくれただろう。クラスの努力は個々の努力の積み重ねであり、自分の課題をクリアすることでクラスに貢献できる。指揮者であつた私は合唱コンクールを通して、そう強く思った。(篠原雅人)

僕たち三年生は校外研修で大相撲観戦に行きました。まず初めに江戸東京博物館へ行き数々の展示から、江戸から東京への暮らしの変遷を学ぶことができました。そして、大相撲観戦をしに両国国技館へ。国技館の外観もさることながら、取組の迫力に圧倒され、日本の国技の大切さを改めて知る良い機会となりました。(吉野佑)

夢の扉に向かって
中学校教頭 小柏 茂夫

皆さんの入学は、本校にとって十期生という、大きな節目の学年です。四期生の先輩たちも素晴らしい実績を残し、大きな夢の実現に向かって学園を巣立ちました。七期生の先輩たちも自己実現に向け、高校に進級していきました。新入生の皆さんは、今日から本校の生徒として、自覚と誇りを持ち、

素晴らしい思い出作りがあります。また、今まで気づかなかつた自己発見や、豊かな人間性が自然と身につく事でしょう。未来につながる夢の扉を開けるスタートです。

一月十八日(金)、三年生は両国国技館へ行き、大相撲を観戦した。日本の国技が持つ迫力を肌で感じられた。

茶道体験(一年生)
二月十九日(木)、一年生は六月以来二度目の茶道体験を行なった。生徒たちは前回よりも落ち着いた様子で、お茶を頂いていた。

今回は前回よりも正座がしっかりとできるようになつて、一度も正座を崩さずにいることができました。また、お茶菓子がおまんじゅうから練りきりになり、色鮮やかでとてもきれいでした。今日の体験では、お茶を頂くだけでなく、茶道の歴史や和室での作法、掛軸やお花の選び方など、茶道に関する事をもたくさん教えてもらい、とても興味深かったです。(飯野千尋)

陶芸体験(二年生)
二月三日(火)、二年生は栃木県の益子で陶芸体験を行なった。どんな作品となるのか、焼き上がりを楽しみである。

私達は来年度の茶道体験で使う抹茶碗を作りました。粘土の扱いは難しく、手間のかかる作業だったので、普段使っている器のありがたみを感じることができました。今回の研修では、日本の伝統ある陶芸品に触れることで、日本の伝統の素晴らしさを改めて感じました。将来、様々なものが發達しても、この伝統は残していかなければならないと思えます。(岡村明日香)